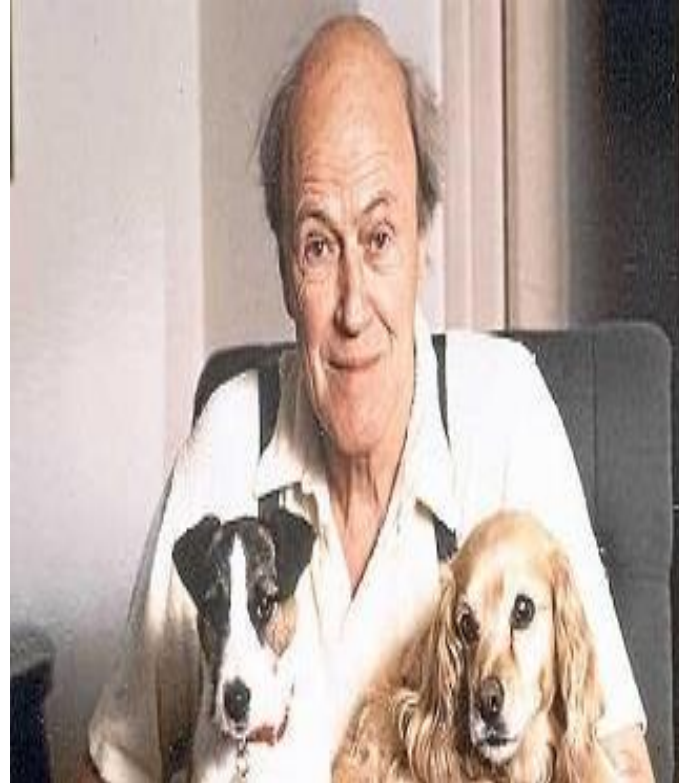


7~9月 作家特集 ロアルド・ダール

Roald Dahl (1916~1990)

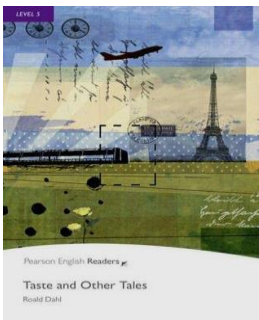
〈作家紹介〉

1916年 英国サウス・ウェールズにノルウェー移民の子として生まれる。1932年 名門パブリックスクール、レプトン校を卒業。18歳でシェル石油会社入社。1939年 イギリス空軍に志願入隊。戦闘機のパイロットになるが、リビアで撃墜され重傷を負う。1942年米国ワシントンに赴任。そこで軍隊をテーマとする冒険小説家 C.S. フォスターより飛行体験の取材を受ける。その際、ダールが作ったメモがそのまま物語として出版され、作家ロアルド・ダールが誕生した。短編の名手で、1954年短編集『あなたに似た人』(1953)が、アメリカ推理小説作家クラブ賞・エドガー・アラン・ポー賞を受賞。また自分の子ども達向けに書き始めた児童文学においても有名で、数々の作品が子どもにも大人にも愛され続けている。生誕100周年の今年、The BFG(1982)が、スティーブン・スピルバーグのファンタジー映画となって公開される。(邦題「BFG: ビック・フレンドリー・ジャイアント」9月に日本公開予定)



Taste and Other Tales

短編作品集



日本語訳もあります。

『新ちくま文学の森 ごちそう帳』に「味」

短篇集『あなたに似た人』『キス・キス』はいわき市立図書館。

ダールの短編集『あなたに似た人』『キス・キス』より数編ずつ収録し、計8編で構成。ダイジェスト版です。ミステリーともSFともつかない特異な作風を江戸川乱歩は「**奇妙な味**」と表現しましたが、ダールの短編もそのひとつ。奇想天外なアイデアとストーリー展開で**急転直下**の結末まで読者を離さず、最後に何ともいえない読後感をもたらします。

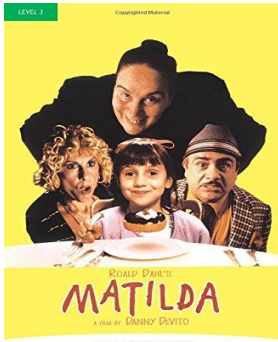
その中の一編、Taste(味)は、ある成金の男が招待したひとりの食通(グルメ)の男に自慢のワインの銘柄が舌で当てられるのかを試すお話。成金男の娘とグルメ男の家二軒を賭けてのスリルあるやりとり…。さて、ファイナルアンサーは？

有名な銘柄が次々出てきて「ワイン通」ならより楽しめます。(未成年の方は実際に味わうのは20歳を過ぎてからお願いします!)原文に挑戦する方は [Taste and Other Stories <ダール短編集>](#)

巻末の註釈(日本語)が参考になります。

MATILDA

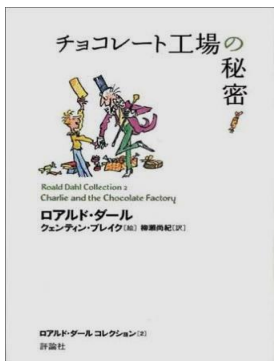
マチルダ



マチルダは5歳にしてディケンズやヘミングウェイを読みこなす天才少女。それなのに両親は全く理解せず、学校は巨大な女校長が横暴なふるまいで君臨する**最悪**な環境…。これはマチルダがその高圧的な大人たちに彼女の**能力**で仕返しをする痛快な物語。1人の人間として、そして彼女の理解者であるミス・ハニーのためにも勇敢に立ち向かうマチルダの姿は、きっと大人による**理不尽**に悩む世界中の子どもたちを勇気づけたのではないのでしょうか。

映画のシーン挿絵にし、多読本なので、比較的簡単な英語に直してあります。翻訳本および原文のペーパーバック版はいわき市立図書館にあります。

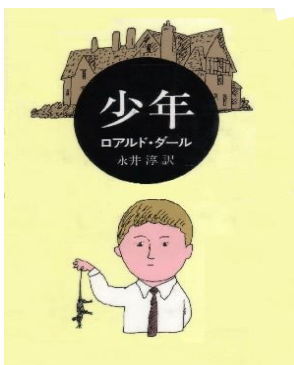
チョコレート工場の秘密



これまでに二度映画化され、2005年のティム・バートン監督の「チャーリーとチョコレート工場」はご存知の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。面白さでは、もちろんのことですが、登場人物の名前もまたユニーク。この本の訳者あとがきには、訳名と英語名が紹介されています。



少年 BOY Tales of Childhood



ロアルド・ダールの自伝二部作における少年期のもの。冒頭、ダール自身が「これは自伝ではない」と断言している様に少年ダールの身に起きた、忘れがたい「事件」が短編の物語のように**生き生き**とユーモアたっぷりに書かれ、写真や自筆の手紙やイラストが散りばめられた愛すべき一冊です！

当時の学校生活も興味深く『チョコレート工場の秘密』誕生にかかわるエピソードも登場します。

